

Interview #09

*2026年3月インタビュー

2025年12月所属：名古屋大学理学研究科特別研究生／北海道大学医学院医学専攻
(日本学術振興会特別研究員)

2026年4月所属：味の素株式会社



理学研究科 羽鳥 聖七 さん

これまでやってきた研究の概要を教えてください。

私は学部時代から一貫して「睡眠」にフォーカスして研究をしてきました。学部ではショウジョウバエ、修士ではマウスと、モデル動物を変えながら研究を進め、博士課程ではフトアゴヒゲトカゲという爬虫類を用いて研究を行いました。

特に博士では、寝不足によって低下した機能が代償されるメカニズムについて、その進化的な保存性や神経メカニズムに着目して研究を行いました。これまで様々なモデル動物を使い、それぞれに得手不得手があることを学んだ中で、本研究を行う上で最適なモデルとして、このトカゲにたどり着き、研究を進めました。

この春からはどういう仕事をする予定ですか？

この春からは、味の素株式会社に就職する予定です。具体的な配属やテーマについてはまだ決まっていますが、研究職として採用いただいています。

もともと睡眠の研究を始めきっかけとして、「万人が無理なくできる予防」に興味がありました。その延長線上で、「食べることで予防できる」商品に携わりたいと考え、食品業界を中心に見ていました。幾つかの企業を見ていく中で、企業それぞれに違った魅力を感じましたが、最終的には「この人と一緒に働いたら良い研究ができそうだ」と感じる方々に出会えたことが入社を決め手になりました。面接を通じてコミュニケーションを取る中で、研究に対する考え方や人との向き合い方に強く共感し、この会社に決めました。

キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

医学部の博士課程に在籍していたこともあって、周囲に企業就職を目指す人が少なく、情報を得るのが難しい環境でした。さらに授業がオンライン中心だったので同期とのつながりが作りにくく、情報に弱くならないようにすることは、早い段階からかなり意識していました。そのため、OB・OGが話す機会に積極的に参加したり、進路の先生にはやめに相談していたりと、受け身にならずに動くことを心がけました。ぜひ積極的に活用してみてください。

研究の面では、論文だけでなく雑誌執筆の機会に恵まれ、自分の研究を一般の人にも分かりやすく伝える経験を積めたことが大きかったと思います。就活では研究内容を簡潔に説明する場面は多いので、相手に合わせて研究を噛み砕いて伝える力はとても役に立ちました。

一方で、インターンシップには全く参加しなかったのですが、面接を受ける中で会社ごとの雰囲気の違いを感じたため、「行っておけば良かった」と反省しています。ずっとアカデミアにいると考えが凝り固まってしまうこともあると思いますし、たとえ研究が忙しくても、外の世界を知る機会は持っておいた方が良いと思います。

■ 就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

就職活動では、自分の研究分野や技術が直接評価されたというよりは、「どのように考えてきたか」「どんな経験をしてきたか」が見られ、そこを評価いただいたと感じています。実際、最終面接でも「今の研究や技術が会社で役に立つと思うか」と聞かれて、「直接は役に立たないと思います」と答えたことを記憶しています。

就活を通じて意識していたのは、「自分にしかないものは何か。つまり、自分は周りとは何が違うのか、差異を見つける」という点です。その一つとして、私は医学部、薬学部、理学部、工学部に所属した経験をアピールしました。例えば、基礎研究にフォーカスする環境と応用を重視する環境では、同じ現象でも見方が全く違うため、そういった多様な視点を持っていることを自分の強みとして話すようにしていました。なぜ多様な研究室に通ったのか、その経緯も明確に話せるように意識していました。「自分にしかない強みを自分の言葉で話す」ことを評価していただいたように思います。

また、いわゆるガクチカ的な内容を準備するにあたり、これまでの学生生活をじっくりと振り返る時間を作ったことが、良い方向に働いたと感じます。私の場合は、スマートフォンの写真フォルダを見返しながら、「自分は何をしてきたのか」を一つひとつ思い出していく中で、自分の経験を言語化していきました。学部時代のエピソードであっても実際の面接で深掘りしていただくことが多かった印象で、こうした準備はとても役に立ったと思います。

■ 後輩たちにエールをお願いします。

博士課程では、研究と就活の両立で大変な時期が必ずやってくるはずですが、就活は長丁場になるので、大変な時こそ力を出しすぎず、ある程度余裕を持ちながら進めていくことが、長く戦う上で大切だと思います。自分は常に7,8割の出力を継続することを意識していました。一つの企業の結果に一喜一憂したり、周りの結果を聞いて焦ったりすることがあるかと思いますが、周りを気にしすぎず自分のペースで進めてください。

最後に、就活中に自分なりに意識していたことを二つ、具体的に紹介します。

まず、具体的な働くイメージを持つことです。限りある情報の中で可能な限りイメージを膨らませるために、情報収集を徹底し、例えば、企業のホームページを見るだけでなく、IR資料や特許情報なども見るようにしていました。幾つかの企業を比較するうちに、その会社が考えていることや今後の方向性が少しずつ見えてきて、働くイメージも持ちやすくなりました。

また、面接を経験するにつれて、面接は評価される場である一方、自分が企業を見る場でもあると感じていきました。緊張感はもちろん重要ですが、「この人たちと一緒に働きたいか」という視点・評価する余裕を持つと、焦ったり自分のことを話し過ぎたりすることがなくなったように思います。